**8 竹西寛子『古典の旅８　百人一首』**

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみの

」のⓐコトバガキを読んでみる。、（藤原保昌。藤原道長の。式部はと離別後、結婚）に具して丹後国にりける頃、都のありけるに、、歌よみにとられて侍りけるを、中納言（「朝ぼらけ宇治の川霧絶えだえにあらはれわたる瀬々の」の作者のかたにまうできて、歌はいかがせさせ給ふ、丹後へは人はつかはしけむや、使ひはまうで来ずや、いかに心もとなくおぼすらむ、などたはぶれて立ちけるを、ひきとどめて詠める」

①和泉式部は夫の任国にある。

年若い女の身で歌合の歌人に選ばれたとあって、宮廷貴族たちはとにさえまじえて小式部内侍の動静をうかがっていたと思われる。わざわざ女の局にまでやってきて、「歌はお出来になりましたか。丹後のお母様のところへは、もうお使いは出されたのでしょうか。お使いがまだ帰って来ないのですか。さぞ心細くお過ごしでしょう」とれかけたのは中納言定頼であったが、②局までは訪ねなかった定頼もきっと少なくはなかったろう。

それとはなしに③母親の添削をほのめかしているのも、にはⓑクヤしかったに違いないが、あからさまな応酬は相手と同じ次元に立つことになるし、第一自分の誇りが許さない。そこで、定頼を引きとめ、ⓒソクザに答えたのが大江山の歌だった。

「仰せではございますが、丹後の母の所へは、大江山やのような、いくつもの野山を越えて行かなければなりません。道のりは遠うございます。私はまだ、あの天の橋立にも立ったことはございませんし、母からの手紙を受け取ったこともないのでございますよ」

これは④しっぺい返しの一首である。歌の素質と才能だけでなく、とっさの  
ⓓキチもこの種の歌の支えである。ただと違うのは、応酬に、もう一枚うすものがかけられているということ。激しさ、鋭さでは一歩退くが、歌の、間接表現の余情には尽きないものがあって、さすが和泉式部の女だと思う。複数の恋の相手がすぐれた文化人であるのも、彼女自身の才知と人間的魅力があずかっていたのであろう。

⑤これは清少納言についても言えると思うのだが、男性の宮廷貴族の戯れの贈歌に、贈られた女の品位を疑うだけではいけないと思う。手ごたえの全く予想できない女には最初から戯れの歌など贈らないだろうし、贈ってⓔキョウざめになりたくもなかろう。好意と多少の悪意を、そうと知っていてちりばめながら、玉投げをしむように贈答できるかできないか。そういう能力をそなえていることも、宮廷の女房の魅力の一つであったかと思われる。

語　注

天の橋立＝京都府宮津市。日本三景の一つ。

金葉集＝平安後期の歌集。

和泉式部＝平安中期の女流歌人。

歌合＝歌の作者を左右に分け、優劣を比較して勝負を判定した一種の文学的遊戯。

局＝宮中や貴族の邸宅などで、そこに仕える女性が住む部屋のこと。

清少納言＝平安中期の随筆家・歌人。『枕草子』の著者。

漢字　二重傍線部ⓐ〜ⓔのカタカナを漢字に直せ。

（３点×５）

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕　ⓒ〔　　　　　〕

ⓓ〔　　　　　〕　ⓔ〔　　　　　〕

問１　傍線部①とあるが、「夫」とは誰のことか。「任国」とはどこか、適当なものをそれぞれ次から選べ。（５点×２）

ア　藤原保昌　　イ　橘道貞　　ウ　中納言定頼

エ　生野　　オ　丹後国　　カ　宇治

「夫」＝〔　　　〕　　「任国」＝〔　　　〕

問２　傍線部②とあるが、どういうことか。最も適当なものを次から選べ。（６点）

ア　定頼のように小式部内侍のいる部屋までは来なくても、多くの宮廷貴族たちが若く美しい内侍にひそかに心を寄せていたということ。

イ　定頼は、歌合に選ばれた内侍に対して、特別の感情を抱いていたが、戯れるために部屋まで訪ねて来なかったということ。

ウ　多くの宮廷貴族たちは、歌合に選ばれた小式部内侍の動静について、定頼のようには関心がなかったということ。

エ　定頼のように小式部内侍のいる部屋までは来なくても、多くの宮廷貴族たちは、心の中では、歌合に選ばれた内侍の動静を意地悪く見守っていたということ。

オ　定頼のように内侍のいる部屋まで来て戯れるほど、内侍に対して意地悪い宮廷貴族たちはいなかったということ。

〔　　　〕

問３　傍線部③とあるが、どういうことか。最も適当なものを次から選べ。（６点）

ア　いつも歌を母親に見てもらっているだろうに、歌合の歌は直してもらったのかということ。

イ　歌合での歌を母親に見てもらっても遠く離れた丹後では、歌合には間に合わないということ。

ウ　自分で「大江山」の歌を詠んだのではなく、母親に作ってもらったということ。

エ　母親の文学的影響を受けて、「大江山」の歌のようなすぐれた歌を詠むことができたということ。

オ　自分は歌を作らずに、母親が詠んだ歌を自分の歌だと偽っているということ。

〔　　　〕

問４　傍線部④は、どういう「戯れ」に対して、どのように「応酬」することであるのか、説明せよ。（７点）

〔

〕

問５　傍線部⑤について、どういうことが「言える」のか、説明せよ。（６点）

〔

〕

練習問題〈文学史〉

次に述べる文芸思潮の名称を後から選べ。

①人間の心や社会をありのままに写すことを文学の目標にした。

②恋愛や理想世界に自我の覚醒と人間性の解放を求めた。

③美の世界を至高とし、享楽的・官能的傾向を強めた。

④トルストイの人道主義を信奉し、強固な自我と個性を尊重した。

⑤斬新な感覚を生かす文体と構成を用いて、新しい文学を目指した。

ア　主義　　イ　写実主義

ウ　派　　　エ　派

オ　自然主義　　カ　新感覚派

①（　　）②（　　）③（　　）④（　　）⑤（　　）

【解答】

漢字　ⓐ詞書　ⓑ悔（しい）　ⓒ即座　ⓓ機知（智）　ⓔ興

問１　「夫」＝ア　「任国」＝オ

問２　エ

問３　ア

問４　母親に見てもらえないといい歌が詠めないだろうという定頼に対し、小式部内侍は、母親が遠く丹後にいる状況を即座に歌に詠み、一人でもいい歌が詠めると定頼に実証したこと。

問５　宮廷の女房として、好意と多少の悪意を持って歌の贈答を愉しむことができる能力をそなえているということ。

【練習問題解答】

①イ　②ア　③ウ　④エ　⑤カ

【50字要約例】

定頼の戯れにとっさの機知で応酬した小式部内侍の才知と人間的魅力は宮廷女房たちが備えていたものである。（50字）

▼補充問題▲

＊本文「動静」を空欄にして、

問　空欄には、「人の行動や物事の動きについてのようす」という意味の語句が入る。最も適当なものを次から選べ。

ア　趣旨　　イ　機嫌　　ウ　進退　　エ　意向　　オ　動静

答　オ

問　筆者は、小式部内侍の魅力をどのようにとらえているか。その説明として最も適当なものを次から選べ。

ア　歌の素質と才能はもちろんのこと、激しさと鋭さも兼ね備えていること。

イ　歌の素質と才能とともに、母である和泉式部のように恋多き女性であること。

ウ　歌の素質と才能と機知（智）を兼ね備えながらも、女性らしい心遣いを忘れないこと。

エ　歌の素質と才能だけではなく、人間としての好意と悪意も存分に発揮すること。

オ　歌の素質と才能と機知（智）に、和泉式部の娘としての誇りを持っていること。

答　ウ